

江差町議会だより

■発行・北海道江差町議会
■編集・議会広報特別委員会
〒043-8560
北海道檜山郡江差町字中歌町193番地の1
☎[0139] 52-6713 (直通)

うどんをこねこね！

水堀保育園で行われたうどん作り。うどん生地を足で踏み、のばしたあと細く切り、おいしくなれと思いを込めて作っていました。うどんはこの日の給食に力うどんとして出され、みんなでおいしく頂きました。



平成27年
12月議会

6名の議員が一般質問 生活交通バス路線補助等の補正が可決

—もくじ—

- ◇定例会の主な内容・・・・・・・・・・ 2～3P
- ◇平成26年度決算審査・・・・・・・・・・ 4～7P
- ◇行政報告・意見書・・・・・・・・・・ 8P
- ◇一般質問・・・・・・・・・・ 8～14P
- ◇委員会報告・・・・・・・・・・ 15P
- ◇全員協議会・議会の動き・社会貢献賞受賞・・・ 16P

平成27年12月定例会が12月15日に行われ、平成26年度各会計の決算認定、条例の制定や補正など提案された案件を審議し、原案どおり可決しました。

また、6人の議員がさまざまな観点から町政に問いかけました。

補正総額は3,454万2千円

生活交通バス路線維持費等補助、借金の繰上償還等の事業費を補正



補正予算の状況

会計名	今回補正額	補正後の予算額
一般会計	2,718万8千円	52億1,627万8千円
特別会計		
国民健康保険費	657万4千円	11億7,488万7千円
介護保険	78万円	10億2,051万8千円
合計	3,454万2千円	74億1,168万3千円

補正予算は、一般会計では、22事業計3,500万円余の減額補正の他、生活交通バス路線維持費等補助、ふるさと応援寄附金対策、町債の繰上償還等計16事業の補正を、国保会計では収納率向上対策と医療費適正化対策を、介護保険会計ではケアプラン作成委託の補正について審議しました。

《補正予算》

〔一般会計〕

◇減額補正（小規模治山事業等）

計▲3,508万6千円
（国庫支出金他）

◇町債任意繰上償還

2,520万円
（全額一般財源）

翌年度以降の公債費の軽減を図るため、長期借入金を繰上償還。

◇生活交通バス路線維持費等補助

1,418万円
（全額一般財源）

住民生活に必要不可欠な路線バスの維持のため運行事業者に対して行う補助金。

◇ふるさと応援寄附金対策

725万5千円
（その他特定財源他）

ふるさと応援寄附金対策に要する経費の補正。

◇後期高齢者医療広域連合負担金

650万9千円
（全額一般財源）

後期高齢者医療広域連合への負担金の増。

◇檜山管内7町と東京都特別区との連携事業（移住定住等受入環境整備）

212万6千円
（国庫支出金他）

特別区との連携による知名度向上や販路拡大、移住定住等の促進を図ることを目的とした事業。お試し暮らし住宅の整備等を行う。

◇公営住宅維持管理

200万円
（全額一般財源）

空き住宅の修繕費用の補正。

◇社会保障・税番号制度に対応するための公営住宅管理システム改修等

194万4千円
（全額一般財源）

個人番号を利用するためのシステム改修費用の補正。

◇水堀コミュニケーションセンター非常放送設備改修

69万7千円
（全額一般財源）

非常放送時に音声流れないなどの不良が見つかったことから補修。

◇社会保障・税番号制度に対応するための人事給与システム改修

53万円
（全額一般財源）

個人番号を利用するために職員給与の電算システムを改修。

◇老人福祉センター加圧給水ポンプ修繕

45万4千円
（全額一般財源）

加圧給水ポンプ2基のうち1基が故障し補修。

◇個人番号カードに係る顔認証システム導入

40万1千円
（全額一般財源）

個人番号カードを交付する際における本人確認を正確かつ確実にするため、顔認証システムを導入。

◇ひのき荘排水設備修繕

39万7千円
（全額一般財源）

トイレの排水管が詰まり漏水したことから補修。

◇新栄デジタルテレビ中継局放送機用電源ユニット取替修繕

21万1千円
（全額一般財源）

3台ある電源ユニットのうち1台が故障し交換。

《補正予算（続き）》

◇公的個人認証タッチパネル導入 20万2千円

（全額一般財源）

個人番号カードへの対応とサービスを提供している機器が統合されることに伴い必要となるタッチパネルディスプレイを導入。

◇権利擁護人材フォローアップ研修事業 11万9千円

（全額道支出金）

認知症高齢者等の権利擁護のための人材を育成するため、生活支援員・市民後見人の講演会等を開催。

◇公職選挙法改正に伴う選挙人名簿調整システム改修 4万9千円

（国庫支出金他）

選挙権の年齢が18歳に改正されたことに伴うシステムの改修。

〔国民健康保険会計〕

◇収納率向上対策事業 221万2千円

（道支出金他）

◇医療費適正化対策事業 436万2千円

（道支出金他）

各種事業における経費の補正。

〔介護保険会計〕

◇ケアプラン作成委託 78万円

（全額その他特定財源）

ケアプラン作成経費の補正。

《条例制定・一部改正》

◇個人番号利用条例の制定

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の施行に伴い条例制定するもので、マイナンバーの独自利用や庁内での利用、連携について規定。

◇条例の一部改正

◇税条例の一部改正
省令の改正を踏まえ、法人番号等に関する見直し、総務省からの正誤表を踏まえた訂正によるもの。

《その他》

◇工事請負契約の一部変更

江差中学校グラウンド整備工事について、契約金額が9,158万4千円から、9,329万4千円に変更された。

《人事》

任期満了による人事案件について、次のとおり選任及び推薦しました。

◇固定資産評価審査委員会委員の選任（再任）

若濱 博 氏（陣屋町・67歳）

◇人権擁護委員候補者の推薦（再任）

松村 俊昭 氏（本町・74歳）

◇人権擁護委員候補者の推薦（新任）

植木 やす子 氏

（愛宕町・63歳）

江差北中学校3年生が
本会議を傍聴しました！

12月定例会の本会議を江差北中学校3年生が傍聴しました。約1時間、委員会報告、決算認定、一般質問などのやりとりを見学。傍聴した感想をご紹介します。

江差北中学校3年 菅野春奈



今回の議会見学を通して私たちが住んでいる江差町についての取組や問題など、そして役場の役割など多くのことを知ることができました。役場についてでは、多数の課に分かれていて、それぞれどんなことに力を入れているのかなどより詳しくわかりました。学校などの公共施設の建物に異常があった場合なども役場に連絡することで対応してくれるので、私たちの生活に最も必要な場所だと言うことをより知ることができました。議会では、私たちが過去に学校行事で行ったことのある公園で「熊が出没した」や「遊具が使えない」ということを耳に聞いて気になっていたけれど、議員の方からの提案があり対策を考えていることに安心しました。最近の公園は遊具が減ってきていると思うので、提案にあったとおり、増やした方が小さな子もより楽しむことができるのではないかと思います。また、議会と中学校で行う生徒総会での進め方で似ている部分があるということも実際に見て知ることができました。本当に今回は貴重な体験ができ、今の江差町についてたくさんのお話を聞けました。私たちの生活、町を支えてくださっている皆さんへの感謝を忘れずに生活していきたいです。

江差北中学校3年 國仙雄斗



江差町議会を見学して、まず議長の挨拶から始まり、次から江差町の問題に対する質疑応答が行われて、1つ1つが細かく審議されていて、ぼくはあまり審議内容はわからなかったけど、唯一わかったのは江差町をよくしたいという思いは伝わってきました。あと驚いたのは、職員がお金を着用していたのは驚きました。テレビでは、着服問題はみたことはあるけど、地元でこんなことがあるのかと思いました。今まで知らなかった地方自治体の問題を知り、とてもよい経験になりました。今回の議会は、職員の不祥事のことが取り上げられていてイメージしていた議会と少し違ったけど、その中でも、公園のことや環境のこと、江差線の廃線に伴っての線路の撤去をするためのJR北海道との協定の締結などの私たちに身近なことも、審議されていてこれが議会なのかと思いました。今回の江差町議会の見学で、地方自治体は、どのように問題を審議しているかなどを知れて、難しい内容ではあったけど、議会のあり方が少しわかったので、将来大人になり、選挙権が与えられたときは、しっかり考えて投票したいと思います。



まちの家計簿を審議

総額86億8,997万円を認定



会計名		歳入	歳出
一般会計		63億548万円	59億1,060万円
特別会計	国民健康保険費	10億8,164万円	10億3,512万円
	後期高齢者医療	1億1,214万円	1億1,204万円
	介護保険	10億3,571万円	10億572万円
	公共下水道事業	2億3,843万円	2億3,843万円
	公設地方卸売市場事業	79万円	72万円
	港湾整備事業	221万円	204万円
	奨学金	561万円	560万円
水道事業会計		収益合計 4億5,552万円	費用合計 3億7,970万円
合 計		92億3,753万円	86億8,997万円

決算審査特別委員会（小笠原淳夫委員長）は、10月21日から23日までの3日間、委員会を開催し、平成26年度各会計の歳入歳出全般に係る執行状況について、各課から説明を受け、慎重に審議しました。

（写真は総務課のようす）

決算審査特別委員会委員長報告

※第4回定例会で報告を行いました。

各会計決算については次の事項を付記し、認定すべきものと決定した。

◆各施策の推進について
新たな施策では、江差中学校の校舎・屋内体育館本体工事が完成し、3学期から新しい学び舎で学校生活が始まったが、更なる、学校教育の内容充実に尽くされたい。

また、子育て支援では、第3子以降の保育料の無料化、子ども医療費無料化を18歳まで年齢の引き上げ等が制度化されたが、引き続き子育て支援の充実を図られたい。

地域医療対策では、2月からドクターヘリが運行され、救命率が向上するものと期待される。医師及び看護師確保対策として、奨学金制度が開始されたが、制度が広く行き渡るよう普及に努められたい。

産業振興では、中心市街地活性化対策として、旧江光ビルの解体工事に着手したが、跡地の再開発により中心市街地を活性化することが目的であることから、跡地計画について十分な精査を望む。一次産業では、農業・漁業の経営安定基盤事業が新たに制度化されたが、常に農漁業者のニーズを把握し、一層の内容充実に図られたい。観光面においては、観光入込客数が減少しているが、北海道新幹線の開業により、道南に観光客が増え、増加することから、新幹線開業を見据えた観光対策等、民間との連携強化を含めたより効果的な対策が必要である。

◆財政健全化への取り組みについて

平成26年度の実質公債費比率は14.9%と財政の健全化は確実に進んで

いる。今後も、町立養護老人ホームの改築等、大型事業が予定され、各財務諸表の指数が悪化することが推測されることから、引き続き創意と工夫をもって財政の健全化の堅持をお願いする。

◆現地調査について

これまで、交通のかなめとして江差の発展に礎を築いてきた「JR江差線」が、77年の歴史に幕を閉じたことは断腸の思いであるが、住民の生活を守り経済の停滞を招かぬよう廃線跡地を有効活用し、町の活性化につながるインフラ整備を速やかに進めることを望む。

終わりに、職員の皆様は、まちづくりの先頭に立ち、現場での苦労や悩みが大変多いことと思う。住民からの苦情、たて続けに発生した不適切事務など「対岸の火事」と考えず、組織全体の責任であるということを感じてほしい。再発防止に組織をあげて全力で取り組み、町民の信頼回復をお願いする。

一方、江差町がおかれている厳しい現状を踏まえ、町の課題に果敢に取り組んでいくことも求められている。「チャレンジの数だけ失敗も増える。しかし、失敗を恐れてはいけない。挑戦の数だけ目標に近づく」という言葉がある。もちろん、安易に失敗は許されないが、新しいまちづくりの創造のためには、職員の知識やスキル、何よりモラルが必要である。仕事の経験、研修を通して自己研さんに努めて頂くことを願う。

委員会質疑

※委員（議員）から出された質疑を抜粋して掲載しています。

◆コミュニティ助成

Q 何件応募があり、どのように助成決定するのか。

A これまでの数年は補助順番が決まっていた。次年度分は各町内会、保存会等に案内している。



昨年度コミュニティ助成を受けた豊築山

◆町営住宅

Q 町営住宅のうち何割くらい駐車場を確保し、駐車場が無いことで入らないケースは無かったか。

A 割合ではないが、駐車場を整備しているのは、

陣屋団地、新豊川団地、南が丘第4団地、円山第4団地。駐車場を理由に申込を断った件は無かった。

◆まちづくり

Q かもめ島、開陽丸、国道までのアクセス、周辺を含めたまちづくりは。

A 全体を見ながらゾーニングを考えていかなければならない。海の駅開陽丸は機能をアップさせ魅力ある場所にしていきたい。



◆介護予防

Q 介護予防事業等で車が無く来られない人や、多少離れた人でも参加できる仕組みを作っていくべきでは。

A 歩いて来て頂くことも介護予防と認識している。細かい地域でサロン活動が出来ないか展開を考えている。

◆産業振興

Q 活魚パックシステム導入について活用の実態は。



活魚パックシステムでイカをバックするようす

A イカを生かしながら販売していくことを目指

んで取り組みをしたが、難しい状況。魚種によっては長く生きるものもある。もう少し時間を頂き、町も何らかの支援をしながら研究を進めていきたい。

◆新規就農者は増えているか。

A 4人新規就農者として地域に付いている。これらの事業を活用しながら少しずつでも新規就農に結びつけていきたい。

◆観光

Q 観光ガイドの育成事業に参加した中で、実際に希望している人はいるか。



観光ガイド育成事業で小樽を訪問

A 15人参加し、興味を持っている人は何人かいるが、実際にガイドを引き受けていいという人は1人。

Q 施設単独の充実した観光パンフレットが必要では。

A 昔は各施設にあったが今は一つになっている。工夫する必要があると思っており、予算要求を考えたい。



現在の一つになっている観光パンフレット及び開陽丸の単独パンフレット

委員会質疑

※つづき

◆バス



福祉バス

Q 福祉バスと生涯学習バスの区分は、一元管理すべきでは。利用について、民営を圧迫しない範囲で全体調整すべきでは。

A 福祉バスは福祉系の管理でやっていく。教育委員会で所管することが学校とすれば窓口としてやりやすいと思っっている。許可については、許可基準に従い判断している。

◆文化財

Q 郡役所や追分会館等の入館者について、10年間を比較すると一人当たりの単

価が低くなっているが。

A 共通観覧券を発行していることで、買った施設に金額が入る。例えば中村家で購入すると、郡役所の人数は増えるが金額は増えない。また、70歳以上を平成21年から無料にしている。



旧中村家(上)と旧檜山爾志郡役所(左)

決算審査特別委員会で 現地調査を行いました！

委員会では、JR江差線廃線跡地を視察しました。



江差駅跡地。駅舎は解体され、公営住宅が整備される予定になっている。



江差駅跡地から南が丘へ抜ける道まで歩いて付近を調査。勾配や周囲の環境を確認。



南が丘と南浜を結ぶ歩道橋。南が丘小学校の通学路で利用されているが、老朽化が激しい。撤去が予定されている。



柏跨線橋の状況を確認。撤去等が予定されているが具体的な時期や方法は決まっていない。



町長・教育長総括審議

決算審査特別委員会の審議は、各課の担当者への質疑のほかに、町の基本的な考え方の確認や大きな課題に関して、町長へ質疑を行いました（今回は教育長に対する質疑はありませんでした）。

◆防災地域計画の見直しについて

(町長) 年度内に防災会議を開催し、一部見直しを先行して取組んでいきたい。また、「津波浸水想定公表」の時期及びそれらの作業内容等々を勘案しながら作業を進め、今後も引き続き見直し作業に取り組んでいく。

◆職員の人事管理・職員配置について

(町長) 健康管理の面からも総務課において退勤時間の把握に努めている。恒常的に時間外勤務をしている部署は承知しているが、機構改革の実施により、これらの検証作業を行い適正配置に努めたい。

◆消耗品等の物品購入等において地元業者から優先調達の場合は

(町長) 地元から調達するよう指導しているが、改めて地元業者からの優先調達を周知したい。大型店やコンビニなど町外に本社・

本店がある店舗については、町に納税もされており、雇用場でもあることから、地元業者と同等と思っている。

◆開陽丸の改修整備について

(町長) 財団側とも修繕箇所優先順位や財源の確保対策等について協議を進め、適切な施設の維持管理に努めたい。施設の魅力づくりは、周辺の賑わいの創出に向けた仕組みづくりや集客対策等を協議していきたい。

◆税・使用料等自主財源の未納対策について

(町長) 徴収率が低水準であることは非常に危機感を持っている。徴収事務について、今一度、点検・



見直しをし、法令に則った適切な事務を遅滞なく進めるよう指導を徹底し、徴収率の向上に努めたい。

◆不用品について

(町長) 減額補正は検討したい。不用品の他の事業へ使用することは、緊急的な場合や少額での流用の場合を除き原則慎むべきで、本来的には補正すべきと考えている。

◆かもめ島上の建物対策について

(町長) 島上の建物については、かもめ島上という特殊事情を鑑み、先行して対応するべく協議したい。

平成 26 年度決算に対する監査委員からの審査意見



監査委員（近藤代表監査委員・若山監査委員）は、町の財務に関する事務の執行や経営に係る事業の管理などが、法令等に従って適正に行われているかどうか、効率の効果的かどうかという観点から、議会とは別組織として各種監査や審査を行う機関です。

議会に対し、平成 26 年度各会計決算は適正としながらも、何点か意見が付されました。

◆総括的事項（抜粋）

〈地域の現状〉

将来に向けて町を発展させていくためには、新たな投資も必要であり、迅速かつ効果的な施策を推進する必要がある。一方で今後も引き続き行政改革に取り組む必要がある。

〈不適切会計事務防止対策〉

不適切な執行が散見された。適切な事務執行に向けて、職員一人ひとりの法令順守意識の徹底や会計事務に関する知識の向上に努められたい。時間の経過とともに風化させることなく、不断の取り組みに努められたい。

◆予算執行等について（抜粋）

〈未収金対策〉

町民の公平負担の原則を再認識し、徹底した収納体制と滞納管理になお一層の努力を傾注されたい。

◆むすび

限られた財源のなかで、新しい江差の創造に向け、役場と町民が互いに連携する必要がある。新しい公共サービスの調査・検討・政策評価などを通して、時代の経過とともに変わる町民ニーズへ、機敏に対応する事務事業の遂行を期待するものである。その推進役として職員各位の意欲と発想、行動力に大きく期待されるころではあるが、職員数も年々減少していることから、サービスの現場、実務では大変苦勞が多いことも想像できる。互いに協力しながら、業務に精励・研さんされることを望むものである。

行政報告



町長以下職員が不祥事について陳謝

1 職員の不祥事について（抜粋）

地域農業再生協議会の会計から、事務局を担う産業振興課職員（31歳）が、事務経費（約61万円）を着服。町民の皆様並びに議員の皆様、地域農業再生協議会の構成団体の皆様に対し、心からお詫びを申し上げる。再発防止計画書が職場全体に浸透しなかったと言わざるを得ず責任を痛感している。今後は再発防止検討委員会で協議し見直しを図りながら再構築を図っていく。

2 旧JR江差線（木古内・江差間）廃止に伴う鉄道設備の撤去工事に関する協定の締結について（抜粋）

町とJR北海道との間で「旧JR江差線（木古内江差間）廃止に伴う橋梁など鉄道設備の撤去工事に関する協定」について、去る12月10日付で締結した。

3 江差町ほか2町学校給食組合不正経理事故に関する刑事告訴について（抜粋）

平成27年12月14日付けで元栄養士を背任罪で函館地方検察庁に書類送検した旨報告を受けた。

4 寄附採納について

（1）11月13日、（有）いちりき商店代表取締役高橋實様より子育て支援として、室内ブランコ7台、一人乗り自転車6台ほか各種遊具20万円相当。

（2）12月10日及び14日、第一生命労働組合函館営業職支部執行委員長内藤要一様より児童教育の充実のためにと、絵本セット。

意見書を提出

12月定例会では14件の意見書を提出、5件を可決し、関係行政機関へ提出しました。

- ◆給付型奨学金制度の導入・拡充と教育費負担の軽減を求める意見書
- ◆地方大学の機能強化を求める意見書
- ◆ブラッドパッチ療法の保険適用および脳脊髄液減少症の治療推進を求める意見書
- ◆夜間中学の整備と拡充を求める意見書
- ◆TPP交渉大筋合意に対する意見書

六議員が一般質問を問う

議員にとって「一般質問」は、議場という公の場で、町長や教育長に対して町政運営の考え方や将来に対する方針を質すことができる唯一の場です。

◆質問は要約されています◆

議会だよりのスペースの都合上、質問・答弁は要約したものを載せています。

◆表示の説明◆

文中の再、再再はそれぞれ再質問、再再質問を表します。

「江差町職員に係る不祥事防止対策について」

塚本 眞 議員（無会派）

役場全体の組織が職場風土、職員の管理、監督等についても問題がある。町民に対する信頼回復に向けた不祥事防止対策を早急に改めて作成し、行動計画を町民に示すべきではないか。

町長 4月に再発防止計画書を策定し、不祥事を起こさない対策を職員一丸となって取り組んできた。各課では職員のコミュニケーションを図り、月に1から2回、多い課では毎週ミーティングを行い業務の確認等を実施してきた。しかし結果として不祥事を招いた事は浸透していなかったと言わざるを得ず、責任を痛感している。今後は、引き続き再発防止計画書を全職員に浸透させる事は勿論、外郭団体の経理も再発防止委員会で協議し見直しを図っていく。抑止力となる再発防止策を策定し、町行政への信頼回復、未然防止に全力で取り組んでいく。

再 不祥事防止対策は、作っただけで魂が入っていないのではないかと。係の業務に対し目が行き届かなかったのでは。職員研修の体制は整っていたのか。

町長が速やかに懲戒処分を決定する必要もあつたのではないかと。町民に対し行動指針を示し信頼回復に努めるべき。

産業振興課長 四半期ごとに事務事業の検査を実施し不祥事が発覚した。振込にせず現金で取り扱ってきた事、業務が集中する時期であつた事、担当職員が通帳と団体の代表印を保管してきた事を含め、不祥事を招いた要因であると深く反省している。

総務課長 再発防止計画書が結果として浸透せず、検証も必要であり、抑止力となるよう再度構築を図る必要がある。研修は職責ごとに派遣し受講している。職場内

研修も講師を招いて実施している。

懲戒処分については、賞罰委員会を開催し町長に答申する。

副町長 具体的な行動指針については、再発防止委員会を開き、対策を講じていく。町民・議会にも見える形で、民間の力を借りながら抑止力に繋がる具体的な行動指針を改めて策定したいと思つている。

再 本人が不祥事案を確認した時点で速や

かな懲戒処分が必要ではないか。

外郭団体の構成員にも書類や帳簿を見せる等機会を作っていく必要があるのでは。

副町長 処分は事務事業の精査をした上でやっていきたい。

外郭団体の役員にも年に1回でも目を通してもらうことを徹底したい。襟を正して、更なる具体的な行動指針を何とか構築していきたい。

「江差町における新たな雇用機会創出について」

新たな企業誘致や企業等による雇用促進のこれまでの取り組みと、今後の対策は。

新たな戦略として地域内の需要に向き合うサービス業が重要と考える。医療、福祉等のサービス業は今後拡大する事から、これらを活用した雇用の創出についての考え方は。

町長 誘致を希望する企業に対し土地の斡旋等積極的に取り組んできた。平成24年に独自制度として企業立地の促進及

び雇用の奨励に関する条例を制定し、一定の効果があつた。今後もこの制度の周知を図り、新たに企業立地と雇用機会の創出に努めていきたい。

地域内需要に向き合うサービス産業の育成について、町内の動向を的確に見極め、新たな企業や創業の支援策の検討等、環境整備に努めていきたい。

再 テレワーク等の導入状況はどうなつているのか。中学生の地元企業の職場体験機会を作り、



江差北中学校2年生の職場体験学習のようす

地元で就職するスキルアップのきっかけとして欲しいと考えるが。

産業振興課長 技術的な分野、介護等の個人のスキルアップの研修等も実施しながらミスマッチを出来るだけ減らす取り組みをしている。

学校教育課長 全中学2年生で、キャリア教育の推進のため職場体験を全員実施している。

「日本で最も美しい村連合について」

萩原 徹 議員（無会派）

連合の加盟が承認され、登録された地域資源として、いにしえ街道、江差追分、姥神大神宮渡御祭となっており、現地審査員の講評の中で、江差追分では新たなファン作りや若い世代の参加が課題、いにしえ街道では見せる観光から通年型や滞在型のツーリズムへの転換などの助言を受けている。今後、各団体と、どう連携し取り組んでいくのか。

また官民一体となった運営組織として町内の諸団体に呼び掛け、仮称「江差町日本でも美しい村づくり協議会」を立ち上げ、運動を推進していきたい。官民一体となって道路河川の清掃やごみの清掃運動、公園花壇の整

また官民一体となった運営組織として町内の諸団体に呼び掛け、仮称「江差町日本でも美しい村づくり協議会」を立ち上げ、運動を推進していきたい。官民一体となって道路河川の清掃やごみの清掃運動、公園花壇の整

（左）日本で最も美しい村連合に登録された地域資源のひとつ、姥神大神宮渡御祭。姥神大神宮に向かって右側に仮設トイレが設置されている（新栄山左奥）。



（右）姥神土蔵調査設計業務委託事業で行われた土蔵の地質調査の様子。土蔵4棟について各種調査が行われた。

備等に取り組んでいきたい。

いにしえ街道に寄贈された蔵があり、調査が春に終わったと聞いているが、今後どのようにしていくのか。

姥神大神宮渡御祭で来年は新幹線の影響や、祭りの日が山の日で祝日になりたくさんの観光客が来町すると考えられる。しかし公衆トイレが少なく、町が設置すべきと考えるが。

建設水道課長 姥神土蔵の4棟については、昨年度構造調査を実施し、一定程度の修復が必要となっている。今後、利活用についてまず内部で協議し、町としての方向性を示しながら関係団体、地域と協議していきたい。

追分観光課長 姥神大神宮渡御祭では町で設置しているトイレもあるが数が少ない。来年度は観光客の利便性を考え、町で設置すべく予算要求していきたい。

「病院について」

町内には病院が2箇所、診療所が3箇所あるが、現在1箇所休診している。北海道では管内受診率を高めようとしているが、南檜山は管内受診率が低く、受診の一部に制約を受けているが、町ではどう認識し、対応しているか。

町長 一次医療機関とセンター病院である道立江差病院が連携し住民の安心安全の確保に努めているが、診療科目によって、毎日診療していない科や原則予約制となっている科もある。また送迎バスがある事から、渡島管内の医療機関に受診している方もいる。受診しやすい診療体制の充実に関し、道に要請し、札幌大に対しても医師派遣等について要請行動を行っている。地域医療の充実には安心して生活を続けていくために必要不可欠であり、今後は一部制約を受けている点も踏まえ、道や札幌大に対し更なる要望をしていきたい。

江差町では管内受診率はパーセントあるのか。また、管内受診率は目標があるのか。

健康推進課長 管内受診率は、医療、入院、外来ともにおおよそ7割の受診率となっている。目標は高ければ高いほど良いという事になるが、道内21の二次医療圏があるが、南檜山においては下から5番目で、低いところでは北空知や宗谷、日高、留萌が、南檜山よりも低い状況になっている。

低い理由は、管内で診療出来ない科目が多いということか。

健康推進課長 細かい分析はなかなか出来ない現状にある。国保のレセプト等から調べた現状では送迎バスが出ている科や、毎日診療していない科目は、管外診療を求めて出ている事が多い傾向にある。

「高齢者の福祉対策について」

小林くにお 議員（日本共産党）

要支援1、2の方のデイサービス等が介護保険から外され、町が責任を負うサービスに置き換えられる。平成29年度からのサービスを提供する事業主体の受け皿整備は、

各種支援サービスを実施しているNPO法人の負担軽減のため、町の支援が必要ではないか。

町長 29年4月に向けてスケジュール管理や事業内容、既存事業の移行に向けて内部検討を行っている。移行に伴い、要支援認定者が利用しているサービス内容の分析や、各町内会等との意見交換会を通じて把握した状況等から必要なサービス等を内部検討している。今後は介護給付と公的サービスだけでは要支援者を支えていく事は難しい状況になるため、既存のボランティア組織や

NPOなどのサービス活用、新たなサービス創設の働き掛けや支援の必要性等も併せ、内部検討課題としている。

再 このままでは、NPOやボランティアなど活動出来るのか非常に疑問。現状では何も進まないのではないか。具体的なスケジュールは、

健康推進課長 再来年の3月に向けてどういう事を具体的に進めるべきかを整理している状況。少し手がけている部分は、介護予防事業に要支援の方の受け入れを少しずつ始め、地域でのサロン作りに向けて5箇所で行っていた介護予防事業を、実施箇所を増やして今年度進めている状況にある。

「子どもの発達障がいに対する支援施策について」

発達障がいとは、発達障がい者支援法には自閉症、アスペルガー症候群等の脳機能の障がいであってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものと定義されている。

町の現状と課題、これからの対策は。

上ノ国町子ども療育センターを利用できない子どもの数は把握しているか。センターの分室等を江光ビル跡地活用の施設で検討できないか。

理解を深めるため啓発等の取り組みをしていくべきでは。

町長 町では乳幼児の成長発達段階の確認等のため乳幼児健診を行っている。総合的な保健指導を実施し、継続的な支援が必要な言語発達、コミュニケーション面での割合が高くなっている。

発達支援センターの利便性は増加しており、支援

が必要な子どもが増えていく。利用している子どもは22人。

町内での支援センターの開設は、場所のみでなく職員体制を整える等クリアしなければならぬ課題が多い。

振興局にある障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会が企画する地域への障がい者への理解を目的とした事業に対して周知活動の協力を行っている。

教育長 年々特別支援を要する児童生徒は増加傾向にある。各学校に特別支援教育コーディネーターを配置し、ニーズを把握し具体的な手立てを検討し支援している。今後は教職員が発達障がいに正しい理解、知識を習得し、児童生徒への適切な指導が行えるよう各種研修会の参加等について、努力していきたい。

再 ひやまShowがウィークのイベントを役場庁舎でもできないか。

発達障がいのネガティブな印象を変える取り組みは。

健康推進課長 来年度以降の活動のため意見として参考にする。

ネガティブなイメージの一掃については、内部で協議し取り進めたい。



9月7日から行われたひやまshowがウィーク2015。障がい者就労支援事業所の展示・販売の他、発達障がいをテーマにした講演会が行われた。（写真提供：檜山振興局社会福祉課）

「第5次江差町総合計画について」

西海谷 望 議員（無党派）

現在までの総合計画の執行状況はどのように評価、検証、確認されているのか。

後期5年の見直し計画の策定審議会等の再検討はどのように行っているか。

町長 平成23年度から32年度までの計画期間となっており、この間、実施計画によるローリング作業や各年度の予算編成、決算を通じた事務事業の見直しなどを踏まえ一次産業の進行を図るための生産基盤の整備や農水産物の高付加価値化の取り組み、安心安全な暮らしの確保のための防災資機材の整備やドクター



ヘリの運航、さらに18歳までの医療費の無料化や、江差中学校の改築整備等、子育て環境の充実と一定程度次の段階に向けた基盤整備を確実に進めてきた。

後期5年間の計画は、前期5年間の各施策の検証と総括、特に現在策定中の江差町総合戦略や人口ビジョンとの整合性を保ち、また財政状況等を勘案し新たなまちづくりの観点から取りこぼしの無い計画の管理及び推進に努めていきたい。

町 新幹線開業に伴い観光振興について積極的な施策で総合計画を見直すことに期待したい。後期5年間の具体的な施策はあるか。

まちづくり推進課長 総合戦略あるいは後期の総合計画、町長の所信表明の進捗管理、これらを総合的に踏まえ落としの無い予算編成作業に努めたい。

「新幹線開業後の交通ネットワークについて」

3月26日に開業する北海道新幹線にあたり多くの観光客が観光やビジネスで訪れる。早急な交通ネットワーク作りが必要。また、奥尻への交通拠点となる江差町の役割は非常に重要である。

町として各市町村、各交通機関等と交通ネットワーク作りを協議しているか。

フェリーターミナルの施設が老朽化しているが、施設の外観整備とトイレのバリアフリー化は、待合室及び駐車場対策は。

町長 現在、函館バスと新幹線のダイヤ発表後にバス路線のダイヤ改正を行う協議をしている。木古内江差間のJRH江差線代替バスの内、上下各1本を、新幹線開業日から開陽丸を経由するよう要望を行い調整している。加えて新函館北斗駅經由の運行をバス事業所で検討中。更に新幹線木古内駅活用推進協議会では、平成26年度から実証実験を行っている江差松

前千年北海道手形定期観光バスの継続的な運行を予定している。加えて新函館北斗駅及び木古内駅周辺にレンタカー事業者の出店が決まっていることから、観光PRを行い強く要請していきたい。今後奥尻島への観光を目的として訪れる観光客も見込まれることから、ハートランドフェリーと協議連携し、現状の便数の確保、また新幹線ダイヤとリンクした乗船時刻の変更が可能かどうかなど様々な観点から江差町、せたな町、奥尻町と連携していきたい。

フェリーターミナルは、老朽化し腐食や破損している設備については速やかに修繕をしていきたい。トイレはバリアフリー化することが望ましい。

産業振興課長 有料での駐車場の管理も含め検討していかねばならない。フェリー会社、奥尻町と協議し、早急に利用しやすい駐車場を目指したい。

く、観光施設も含め町有施設全体のトイレについて優先度を精査しながら改修を検討していきたい。待合室の収容人員は、現在の施設の状況では抜本的な対策を講じる事が非常に困難であり、将来的に建替えをする時に拡張を検討したい。駐車場は今後、利用客の増加を視野に入れた駐車場の利用方法の整理が必要と考えている。フェリー会社や奥尻町とも早急に協議を行い、一般観光客の利便性の向上に努めたい。

町 駐車場の有料化もしくは契約駐車等の考え方は。

産業振興課長 有料での駐車場の管理も含め検討していかねばならない。フェリー会社、奥尻町と協議し、早急に利用しやすい駐車場を目指したい。



(上) フェリー乗り場（港湾センター）外観
(下) フェリー乗り場内の待合所。建物全体が老朽化し、改修が必要な状況となっている。

「見守り・緊急通報システムについて」

小梅 洋子 議員（無党派）

町民福祉課対応と包括支援センター対応があるがどのような違いがあるのか。

登録者等の台帳整備、点検、更新等はきちんとなされているのか。

町長 1人暮らしの65歳以上の高齢者や、体に障がいがあり日常生活上注意を要する方などに対し申請に基づき高齢者等緊急通報システムを設置している。このシステムは家庭内で急病や事故の



ため緊急に救護を必要とする場合、緊急ボタンを押す事で江差消防署に通報され、速やかな救護を行う。現在57台設置している。また、町内には道営シルバーハウジングが15戸、町営シルバーハウジングが9戸あり、入居者の安否確認や生活相談を行うライフサポートアドバイザーを配置すると共に緊急通報システムを設置している。緊急時の迅速な対応を行うというシステムの機能は、どちらも変わりないが、シルバーハウジングは一括的な管理が可能なため、施設に配置されているライフサポートアドバイザーを中心に安否確認や生活相談などの支援が行われている。



（右）シルバーハウジングに設置している緊急通報システム。非常ボタンは消防署に、相談ボタンは、町包括支援センターに直接つながる。

一方、高齢者緊急通報システムは、町民福祉課で利用者の把握を行っているが、地域包括支援センターや町社会福祉協議会等との情報共有が不足しており、より包括的な支援が必要なケースについては地域ケア会議の活用を図るなど情報の共有を進めていく。

システム台帳の更新等については、高齢者緊急通報システム登録台帳を整備し、運営管理を行い、異動が発生した場合は適時台帳の更新を行っている。協力員や連絡員は、地域によって異なるが、民生委員や町内会の協力を頂きながら、支援体制の充実に努める。

「交流の場づくりについて」

役場の2階から3階にかけての談話ルーム等、周知して使用できないか。

町会所について、調理機能等があれば多目的に利用できる。幅広く利用できるような、機能アップの考えは。

町長 役場庁舎2階から3階にあるスペースの活用について、現在は介護に携わる方々との交流の場であるケアカフェの開催や、少人数での打合せの場として活用されている。休憩する場や歓談する場として活用して頂きたい。ただし、勤務時間外や休日は、管理上、好ましくない事をご理解頂きたい。

町会所は、観光客の無料休憩所としての役割の他、中歌町内会の集会施設として位置づけされている。また、年間を通して多くの団体が、様々な使用目的で活用している。調理器具等の整備は、今後これらの利用団体等の意向、人数、利用形態を踏まえ検討していきたい。

副 将来、暮らしの保健室のような相談できるような場所があるといいのでは。

町民が立ち寄ることので、見られている意識を持つようになり、職員の意識も変わるのでは。

総務課長 役場庁舎のスペースについては、休憩する場、歓談する場として自由に立ち寄って頂きたいという一方で、勤務時間外、それから土曜日、日曜日、祝祭日については庁舎管理上、好ましくないという事も含め、いつでも自由にはならないものの、周知については、これら土日の取り扱いや、勤務時間内であれば自由に、ということを含め、内部協議したい。



役場2階から3階にある町民談話ホール

「江差町中心市街地 商業活性化事業について」

小野寺 真 議員（日本共産党）

江光ビル跡地も含めた中心市街地の問題について、どのようなスケジュールか。

高齢者等のミニデイサービスも利用可能な施設を提案したいが町長の見解は。

法華寺通り商店街の整備手法の再検討等、どうなっているか。

町長 旧江光ビル跡地の活用策は、江差商工会が検討を行っているが、計画が延びている報告は受けていない。今後のスケジュールは、商工会と情報の共有を図り、適切に対処していきたい。旧江光ビル跡地の提案については、商工会が実施した報告書をベースに検討している。

法華寺通り商店街で当初予定していたファサードによる街区の整備が平成27年度の補助メニューから削除されたことを受



法華寺通り商店街

け、現在商店街にて今後の拠点施設のあり方等について協議を行っており、これらの結果を踏まえ方針を検討していきたい。

町長 全部商工会に丸投げか。スケジュールについてはつきり答えるべき。

推進課長 商工会は事業に向けて鋭意議論している最中であり、28年度のスタートを目指しながらも条件が整わなければ29年度の採択に向けて議論を加速させる。これまでも議論を重ねてきており、商工会に丸投げということではない。商工会と一体となって上町の再生に向けて取り組んでいきたい。

法華寺通り商店街は議論が止まった認識はしていない。引き続き議論を進める。

町長 江光ビル跡地整備について、高齢者や子育て問題を取り込める事業だと思うが。

副町長 トータルとして、整理整頓していかねばならないと思っている。

「日本で最も美しい村連合 加盟について」

姥神大神宮渡御祭で、山車の保存、巡行に何らかの支援が必要では。

連合の助言として、町民の森の活用方法、いにしえ街道の観光の転換等をどう考えるか。

美しいという点で、街路樹整備、花いっぱい運動等、町内会等と連携する等、どう考えるか。

町長 山車巡行等について、実行委員会に助成を行っており、来年度は仮設トイレの設置費用の助成を検討している。人的確保は町外の学生等に積極的呼び掛けをし、

労働安全衛生法におけるストレスチェックはどのように進めるのか。

学校現場における業務改善のためのガイドラインについて、教育委員会としての取り組みは。

町長 ストレスチェックは健康状態を調べる検査であり、50人以上の事業所に義務付けられており、来年11月末までに、財政協議も行いながら実施していきたい。

教育長 町内の学校

受け入れ体制の整備を検討したい。

町民の森はヒノキアスナロの植樹活動等高く評価され、有効活用を考えていきたい。いにしえ街道はイベント型から通年型への変更が急務であり、外国人観光客の集客にも力を入れていきたい。

住民と協働での運動展開について協議会を組織し、着実に実行していく体制を整えていきたい。

町長 それぞれの山車がどういう努力をして人々を呼んでいるか等押さえて

は50人未満のため実施の義務は無いが、実施すべきと考えている。

ガイドラインを参考に学校現場で教職員が子どもと向き合う時間の確保が足りるよう支援が図られることを期待したい。

今後、学校現場の業務改善に向けた取り組みを一層推進していきたい。

再 ストレスチェックの準備はどうなっているか。



平成27年5月16日に行われた、ノースヒバプロジェクト2015 檜山の森づくり植樹祭 in えさし〜北限のヒバ山の復活を目指して〜。さまざまな団体や職種の人たちが集まって植樹を行った。

社会文教常任委員会 『公園の有効活用に関する事務調査』

社会文教常任委員会（室井正行委員長）は、平成27年第3回定例会で事務調査をおこし、3回会議を開催し、担当課の説明を求めるとともに、逆川森林公園、柳崎児童館前広場、えぞだて公園、九艘川公園、松の岱公園、茂尻児童公園の現地視察を行い、調査をした結果について次のとおり意見を付して報告する。

<はじめに>

江差町内には鷗鳥道立自然公園、逆川森林公園、江差町都市公園条例に基づく江差町運動公園の他、4つの公園が設置されている。

公園の定義は、町民が快適な潤いや緑の環境を享受できる場、スポーツ・レクリエーションを楽しみ、自然や緑を保全する等の目的を有し、入園料は徴収せず、広く一般に開放され、誰でも自由に利用できるとされている。

近年は災害時の避難場所や、子育て支援環境づくり等の機能を有する施設として、用途の多様化や整備の必要性が求められる。都市部では公園が増えている状況がある。保育園や学校、公営住宅用地内、町内会に有する遊具の利用状況の実態、必要性、整備のあり方と合わせ、社会環境の変化に対応可能な施設として計画的な整備方針の立案を望むものである。

また、現地調査の結果、老朽化の他、全く機能されていない遊具や、環境衛生、景観上著しく不適切な施設が多数見られ、遊具の増設・修繕のみならず、総合的な早期抜本的対策を強く望むものである。

以下、公園について、具体的な改善策の提案と有効活用の方向性を意見する。

1. 逆川森林公園

町内北部に位置し、針葉樹・広葉樹の森林構成は四季に享受できる自然環境に恵まれた地域である。また、農業用ダムの水辺を有する景観・環境は、訪れた町民の心を癒す空間構成がある。しかし、木製の遊具等の工作物は、全て経年劣化が著しく利用できなくなっており、速やかな解体・撤去が急務であり、自然環境を生かした公園として、必要最小限の施設整備と環境保全が必要である。また、案内・誘導・周知看板類・トイレ・給水設備周辺の排水対策とキャンプ利用に供する諸設備の整備が必要である。なお、現存する焼却炉は、法令の規定により使用できないため、速やかな解体・撤去を行うこと。

2. 茂尻児童公園

町内市街地中心部に位置し、親子連れの姿をよく見かけ、天気の良い日は子どもの遊び場として適した位置に有していると考えられる。しかし、遊具不足、簡易休憩施設、緑化や四季を享受できる花木類が少ない等、児童公園としての機能が

乏しい現状にある。また、排水処理が課題となっており、早期対策を行う必要がある。立地特性を生かした整備促進を図ることにより、利用拡大と多機能を有する公園として整備計画を早期に立案し、改善を図るべきである。花木類の植栽計画にあたっては、町内会や各団体等と協議され、市街地中心部の癒し空間として整備を図るべきと考える。

3. 九艘川公園

いにしえ街道沿いに隣接する小公園として、土蔵風トイレ、水流設備、石垣積みの土留等は、小さなポケットパークとして貴重な存在であると考えられる。トイレ・水流設備は、町会所での利用転換と維持管理、衛生、保安等の面から休止しているが、町内の公園に無い風情があり、貴重な存在と考える。トイレの再利用はそのような理由から困難だが、樹木類の管理と水流設備の再活用、九艘川の由来等の看板類の設置、誘導案内看板等の設置を図ることにより、町民利用のみならず、旧中村家、旧檜山爾志郡役所を訪れる観光客の小休憩場として有効活用が期待される。大きな財源を伴う整備ではないので、早期検討・着手を図るべきである。

4. えぞだて公園

旧関川家別荘と隣接する児童用遊具施設は、景観上異様に見えるので創意工夫が必要である。遊具の増設を図る場合、観光客から入館料を徴収する観光施設と、児童用遊具を隔離する樹木類等の対策が必要と考える。また、庭園内の雑草の撤去をボランティア活動で長年続けている方が現地調査時に見られ、町はその善意に対し何らかの敬意を表すべきである。さらに、公園標識看板が樹木に遮られ、見えていない。早急な対応を図ること。

5. 松の岱公園

松の岱頂上付近に利用されていない児童用遊具設備があることを多くの町民に理解されていない。遊具は老朽化し、撤去・移設・再利用するためには相当額を要すると考える。遊具は全て撤去し、つたやの沢からの散策路整備と合わせ、バードウォッチングやハイキングのコースとして整備すべきである。また、市街地に極めて近く、眺望、歴史遺産等が近辺に有し、優れた景勝地と考える。頂上には給水用配水施設と墓地があり、道路の維持管理と整備を適時行う必要がある。しかし、近年熊の出没が多く、その対策と中長期的観点から全体像の整備計画の策定を望むものである。

6. 柳崎児童館前広場

柳崎地区は若い世代の定住化が進んでおり、子どもたちの遊び場の整備を促進する必要がある。児童館前は、通学する児童のバス停にもなっており、遊具の増設と合わせ、雨対策として待合所兼東屋の施設の整備を早急に図ること。子どもたちが元気にはつらつと遊べる広場としての整備が急務であることを町は認識すべきである。



（右）松の岱公園（中央）九艘川公園（左）逆川森林公園を委員が現地視察

議会の動き

- 10月22日
◆社会文教常任委員会（出席5名）
・公園の有効活用に関する事務調査
- 10月27日
◆社会文教常任委員会（出席5名）
・公園の有効活用に関する事務調査
- 10月30日
◆議会運営委員会（出席5名）
・第6回臨時会の運営について
◆第6回臨時会（出席11名、欠席1名）
◆全員協議会（出席10名、欠席2名）
・江差町ほか2町学校給食組合の厚沢部町の脱退について
・檜山管内7町と東京都特別区との連携事業について
- 11月5日
◆総務産業常任委員会（出席6名）
・新幹線を活用した産業振興に関する事務調査
- 11月10～11日
◆全国議長会議
- 11月17日
◆社会文教常任委員会（出席5名）
・公園の有効活用に関する事務調査
- 11月27日
◆議会運営委員会（出席3名、欠席2名）
・第4回定例会について
◆社会文教常任委員会（出席4名、欠席1名）
・公園の有効活用に関する事務調査
- 12月4日
◆全員協議会（出席11名、欠席1名）
・職員の不祥事について
- 12月8日
◆議会運営委員会（出席5名）
・第4回定例会について
◆全員協議会（出席12名）
・職員の不祥事について
・J R江差駅跡地の町営住宅等の配置素案について
◆総務産業常任委員会（出席6名）
・新幹線を活用した産業振興に関する事務調査
- ◆社会文教常任委員会（出席5名）
・公園の有効活用に関する事務調査
- 12月15日
◆第4回定例会（出席12名）
- 12月18日
◆檜山議長会議
- 12月22日
◆檜山広域行政組合議会第3回定例会
◆江差町ほか2町学校給食組合議会全員協議会
- 1月15日
◆総務産業常任委員会（出席6名）
・新幹線を活用した産業振興に関する事務調査
- ◆広報特別委員会（出席5名）
・2月号議会だよりについて
- 1月19日
◆檜山議長会議
- 1月20日
◆渡島檜山町村議会議長研修会
- 1月21日
◆広報特別委員会（出席5名）
・2月号議会だよりについて

全員協議会を開催しました

10月30日、12月4日及び12月8日に全員協議会が行われました。

その内容についてお知らせします。

10月30日

- ・江差町ほか2町学校給食組合の厚沢部町の脱退について
10月10日付けで厚沢部町長から平成29年4月を目前に、学校給食組合を脱退したい旨の要請書を受け取った。
- ・檜山管内7町と東京都特別区との連携事業について
地方創生先行型交付金を活用した3カ年の事業で、地域資源のポテンシャルの基礎調査、或いはマーケティング、物販、イベントに係る旅費等を盛り込み、来年の3月までに事業の完了を求める。

12月4日

- ・職員の不祥事について
農業再生協議会事務局を担っていた産業振興課職員が協議会の事務経費を私的に着服していたことが11月24日に発覚した。現時点で把握出来ているのは約65万円。今後、調査結果を早急に確定し、厳正な処分、二度と起きないように対策を徹底させたい。

12月8日

- ・職員の不祥事について
着服総額の現時点での総額は659,100円。本人の担当する事務事業についても不適正事務が無いかどうか調査、全容解明にはもう少し時間を要する。再発防止対策について、再構築を図り、町行政への信頼回復に全力で取り組む。
- ・J R江差駅跡地の町営住宅等の配置素案について
円山第3団地建替基本計画検討案について、10月21日にお示しした素案（第3案）を基本に考え、配置素案を基に地元説明会（陣屋町・南が丘）を1月中旬に開催する。



北海道社会貢献賞（自治功労者）を受賞

打越東亜夫 議長

永年にわたり町議会議員として地方自治の進展に寄与されたほか、地域活動に積極的に参画するなど地域の発展に尽力され、受賞となりました。



江差町議会のホームページでは、各定例会等の会議録や議会日程等を掲載していますので、ぜひご覧ください！
(<http://www.hokkaido-esashi.jp/gikai/gikai.html>)